



Harenowa Magazine

——待ち遠しい日々のはじまり



[特集1] イベントピックアップ

この夏、親子でハレノワに遊びに行こう!

舞台やアートで子どもの「ワクワク」を育むフェスティバルを開催

■ 特集2 演劇特集
三谷幸喜は挑戦を続ける

■ 特集3 インタビュー
ハレノワで楽しく国際交流
WORLD ENJOY PARTY!!!で楽しもう!



summer events

この夏、親子で ハレノワに遊びに行こう!

特集1 イベントピックアップ

舞台やアートで子どもの「ワクワク」を育む フェスティバルを開催

2026年夏のハレノワでは、演劇や人形劇、0歳から楽しめるベビーシアター、劇場の大きなガラス面をキャンバスに見立てた「マスキングテープアート」など、親子で芸術に触れ、いろいろな体験ができるプログラムをお届けします。子どもと一緒に楽しめる「あそびの広場」にもぜひお越しください。



また、期間中の10時から15時、大きなガラス面にマスキングテープで思い思いの絵を描ける「マスキングテープアート」(2階・3階エレベーター前、9月6日(日)まで展示予定)をはじめ、さまざまな素材を使っていろいろな人と触れ合い遊ぶことができ

今年開催は、7月31日(金)から8月2日(日)の3日間。大劇場では、1日(土)と2日(日)にベルギーの劇団による『やさしいカクメイ』、中劇場では、2日(日)に絵本が原作の人形劇『パンどろぼう』、31日(金)と1日(土)に赤ちゃんが親と一緒に楽しめるベビーシアター『あむあむにアム?』、小劇場では、31日(金)に史実にもとづいた舞台『青い目の人形』を上演します。

ハレノワでは毎年、NPO法人岡山市子どもセンターと共同で、子どもたちへ豊かな芸術環境を提供することを目的とした「ハレの輪」フェスティバルを開催しています。さまざまな年齢を対象とした子ども向けのプログラムを揃え、演劇やアートに触れたり、自由に遊んだりすることができるイベントです。

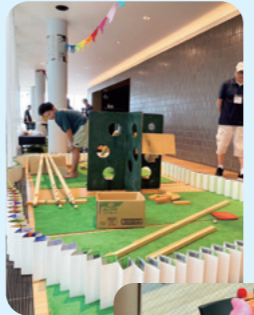
舞台を観る!遊ぶ!
親子で夢中になれる3日間のプログラム

ハレの輪 子どもフェスティバル2026



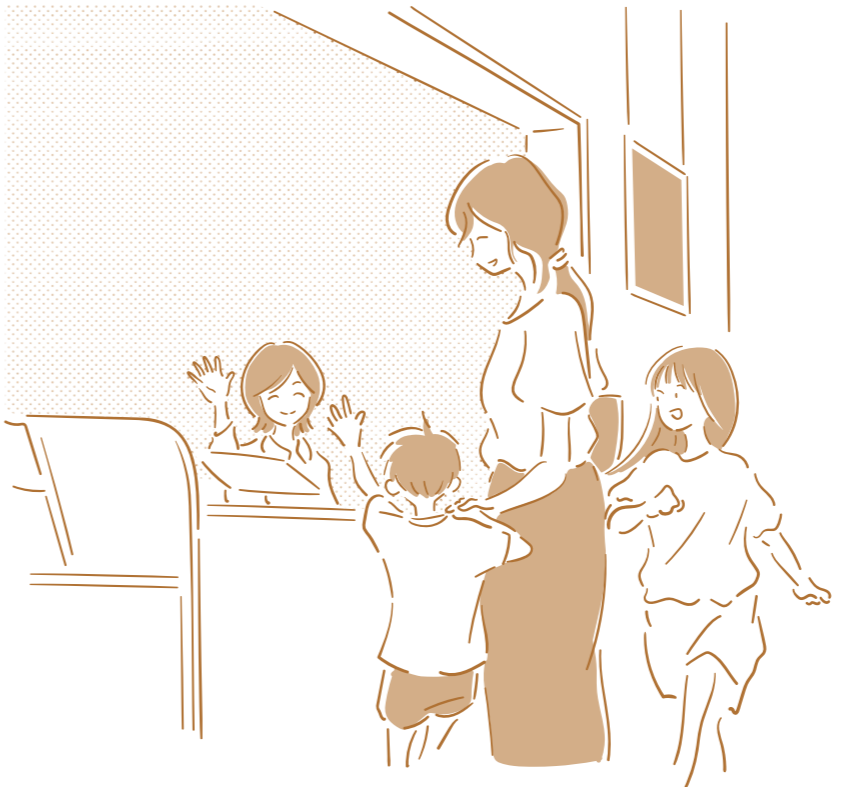
「遊びに行く」ことも本フェスティバルのコンセプトのひとつ。演劇を鑑賞しない方でもご参加いただけます。多様な芸術に触れ、自由に遊ぶことは、子どもが心豊かに育つことにつながります。この夏休みは、ぜひ親子でハレノワに遊びに来てください。

「あそびの広場」(アートサロン)や、「あそび・工作ワークショップ」(3階・4階ホール)も開催します。昨年のマスキングテープアートでは、あらかじめ「海と空の世界」の想像を掻き立てる原画をアーティストが用意し、子どもたちが自由な発想で物語を描き加えました。今年はデザインを子どもたちから募集し、採用された原画をもとに作成します。



CONTENTS

- 3 特集1 イベントピックアップ
この夏、親子でハレノワに遊びに行こう!
舞台やアートで子どもの「ワクワク」を育むフェスティバルを開催
- 6 特集2 演劇特集
三谷幸喜は挑戦を続ける
- 8 特集3 インタビュー
ハレノワで楽しく国際交流
WORLD ENJOY PARTY!!!で楽しもう!
- 10 ハレノワダイアログ [第10回]
ホールを“原っぱ”にして遊び続けるために
話し手:NPO法人企画on岡山 大場 真護
- 12 散策 オモテ帖 [11]
自分のスタイルで、街と人の風景をつなぐ
- 13 イベント開催レポート
- 14 主催事業のご紹介・チケット購入案内



劇団そらのゆめは、子どもたちが健やかに育つ平和な社会を願い、2011年に創設されました。「髪の色や言葉が違ってても、心が通じ合えば、友達になれる」とのメッセージが込められた本作は、今を生きる私たちへ、改めて平和について考えるきっかけを与えてくれます。

7月31日（金）に小劇場で上演されるのは、劇団そらのゆめによる舞台劇『青い目の人形』（麻創けい子作）。本作は戦時中の史実にもとづいた作品で、主に小学生以上を対象としています。上演に先立ち、ピアニスト・重松壮一郎の即興演奏による「いのちの音ピアノ・コンサート」が行われ、上演中も即興ピアノ演奏が続きます。

戦時中の史実にもとづいた物語を通じて、平和や友情について考える。

劇団そらのゆめ

舞台劇『青い目の人形』×

「いのちの音ピアノ・コンサート」



7月31日（金）～8月1日（土）に中劇場で上演されるのは、赤ちゃんと一緒に楽しめるベイブシアター『あむあむなにアム？』（日本児童・青少年演劇団協同組合主催・制作）。0～24か月の子どもとその家族、妊婦を対象とした、音とリズムを楽しむ演劇です。観客は客席ではなくステージ上に座って鑑賞するので、赤ちゃんは演劇に反応して自由に体を動かすことができます。赤ちゃん向けの作品ながら、これまでに鑑賞した親からは、「癒された」「自分にとっても良い時間を過ごせた」といった感想が寄せられました。

赤ちゃんと一緒に楽しむ音とリズムの旅

ベイブシアター

『あむあむなにアム？』



4人の登場人物が、静かな家で編み物を楽しみながら、糸の音や色でやさしいリズムをつくり出します。リズムは、森や温泉、「海の空」へと広がり、観客をさまざまな感覚の世界へ導きます。編み物の音「あむあむ」をきっかけに、リズムに乗って、心と体を動かす旅を始めましょう。

音やリズムからはじまるコミュニケーションの芽生えが、本作のテーマ。言葉をまだ話せない赤ちゃんも、耳や体でリズムを感じ、表情や動きで反応します。スティックや靴、ガラスの器、ひしゃくなど、身近な物を使って音を出す本作で、「音の楽しさ」を親子で見つけたい。



『やさしいカクメイ (Douce Révolution)』

コンパニー・デ・ミュタン (Compagnie des Mutants) ×

サイド・ショー (Side-Show) 共同制作

森のキャンプ場のような舞台空間で、観客と演者が一緒に物語をつくり上げる。



© Hubert Amiel

8月1日（土）～8月2日（日）に大劇場で上演されるのは、『やさしいカクメイ』（ハレノワ主催事業）。本作は、ベルギーの劇団 コンパニー・デ・ミュタン (Compagnie des Mutants) × サイド・ショー (Side-Show) が共同で制作し、2023年に初めて上演されました。本作はノンバーバル（言葉を用いない表現手法）で、演者の声や動き、音楽などを通じて物語を楽しめます。観客は大劇場のステージ上で、舞台を囲むように配置されたテントの中に入り、親子や友人と一緒に椅子やクッションに座って鑑賞します。上演の序盤、演者がステージに青い砂で円を描き、舞台が完成します。青い円の中で、登場人物3人による3日と2晩の旅の物語が動き出します。旅の日々は少しずつ変化しながら、次第に彼らは想像の世界へ。旅の中で、観客と演者が一緒に「散歩のルール」をつくり上げていき、上演後は、観客も演者と一緒になって、青い砂を使って舞台上に思い思いの絵を描くことができます。

「新しい私たちのインクルーシブ（包括的）な舞台をつくり、すべての人にとってできる限りやさしく、心地よいものになりたい」。本作の土台に据えられているのは、製作陣のそんな思いです。製作者の一人は、神経発達症の一種であるトゥレット症候群を抱える子どもの親であり、静かに鑑賞する通常の演劇に、親子で行くことが困難でした。そこで、より多くの人が参加しやすい上演・表現スタイルで本作をつくられました。例えば、会場の扉は上演中でも開いており、出入りは自由。観客は作品に反応して声を出すこともでき、その反応に対して演者が柔軟に対応するといった、双方向的な仕組みが取り入れられています。さらに、強い照明を用いず、小道具などは最初から舞台上にすべて見せておくことで、演出による刺激やサプライズをあえて抑えています。このように、特別な配慮を必要とする人とその同伴者が最後までリラックスして鑑賞できる工夫が施され、どなたでも安心して観劇いただけます。



人形劇『パンどろぼう』

人形劇団クラルテ

パンがパンをかついで逃げる!? 大ヒット絵本の世界を人形劇で楽しもう!

8月2日（日）に中劇場で上演されるのは、人形劇団クラルテによる人形劇『パンどろぼう』。原作は、シリーズ累計550万部を突破した大ヒット絵本の1作目『パンどろぼう』（原作・柴田ケイコ（KADOKAWA刊））です。人形劇団クラルテは1948年の創立以来、70年以上にわたって、幼児向けから大人向けまでのさまざまな作品を全国で上演してきました。作品の中には、絵本や文学作品が原作となっているものも多く、今回の『パンどろぼう』も、人形劇だからこそ実現できる演出や迫力で楽しんでもほしいとの思いから、2024年に上演をスタート。各地で好評を博しています。パンがパンをかついで逃げる？ シュールでお茶目なキャラクターと意外性ある展開で、子どもから大人まで楽しめる本作が、いよいよハレノワにやってきます。

本作の主人公はパンを好むあまり、パンどろぼうになってしまいました。そんな主人公がある日、森の中で見たことのないパン屋に忍び込むと……？ いろいろな登場人物と出会い、関わりながら、主人公は少しずつ成長していきます。本作の演出を手掛けた東口登氏は、「どろぼうのくせに自分の生き方にポリシーがあるんです。愛するパンのためにおもねらず、悪いと思ったら素直にあやまる。自己中心的だった子どもが社会に触れ、自分の人生をきり拓いていくようにも感じます」。人形劇のオリジナルキャラクターが登場し、テーマ曲も流れるなど、絵本とはまた違った注目ポイントや楽しみ方が用意されています。本作を絵本で読んだ方も、まだ触れていない方も、人形劇ならではの演出や臨場感をお楽しみください。



©Keiko Shibata/KADOKAWA

ハレの輪子どもフェスティバル2026
7月31日～8月2日 全館使用

子どもと大人のためのリラックスパフォーマンス『やさしいカクメイ』
コンパニー・デ・ミュタン (Compagnie des Mutants) × サイド・ショー (Side-Show) 共同制作
8月1日 14:00開演・2日 11:00開演/14:00開演 大劇場舞台上

公演詳細・チケット購入はP15へ

この夏から秋にかけて、ハレノワで三谷幸喜作・演出の2作品が上演される。まず7月の『虹のかけら〜もうひとりのジュディ』。三谷が戸田恵子のために作った一人舞台で、歌、芝居、ダンス、語り、加えて、一つの仕掛けがある。戸田の魅力全開の上質のエンターテインメントだ。そして10月には、新作『アメリカン・ドリーム』が登場する。

演劇、映画、テレビとジャンルを行き来しながら創作を続けている三谷幸喜。彼の書く作品は基本、笑いのある「喜劇」で、決して難解ではない。27年目に入った朝日新聞の連載エッセイでは飾らない言葉で日常をつづって読者をくすりとさせ、テレビの情報番組では毎週、とぼけた言動で視聴者を楽しませたり、驚かせたりしている。

穏やかで、親しみやすい人。そんなイメージを抱いている方も多いだろう。

もちろん、その通りだ。でも、「劇作家」としての三谷はいつも野心的だ。出来上がった舞台は、多くのスターが出演していることもあって、ゴツゴツした「実験作」には見えないが、そこにはいつも、「これまでに見たことがない、何か」を貪欲に追い求める挑戦がある。その傾向は年々強まっている。年齢を重ねて丸くなるのではなく、逆にトガってゆく。ゆがみや亀裂もあえて取り込みながら、新しい世界を生み出すために、過去の自分と戦い続けているように見える。

そんな三谷が作・演出した近年の演劇



東京サンシャインボーイズ復活公演『蒙古が襲来』
撮影：細野晋司

で、そんな考察を試みた異色作だった。

昨年、今年も新作を連打している。25年前半は、「劇団東京サンシャインボーイズ」による『蒙古が襲来』が全国で上演された。劇団は人気絶頂だった時期に事実上解散したが、半ば冗談で「30年後の復活」を宣言していた。その約束を果たしたのだ。結婚して俳優をやめた女性1人をのぞき、全員が参加した（亡くなった伊藤俊人は声で出演）。それは、

三谷幸喜は挑戦を続ける

文 | 演劇ジャーナリスト 山口 宏子



みに こうき
三谷 幸喜

1961年7月8日生まれ、東京都出身。日本大学芸術学部演劇学科在学中の1983年、劇団東京サンシャインボーイズを結成。95年以降、30年間の充電期間に入ります。劇団は、09年『Returns』で15年ぶりに公演を行い、25年には復活公演『蒙古が襲来』で北海道から沖縄まで全国9都市ツアーを敢行。大きな反響を呼んだ。近年の作品に、舞台作・演出『オデッサ』『笑の大学』『いのこりぐみ』『新宿発8時15分』、翻案・演出『昭和から騒ぎ』、映画 脚本・監督『記憶にございません!』『スオミの話をしよう』、ドラマ 脚本『鎌倉殿の13人』『もしもこの世が舞台なら、楽屋はどこにあるのだろう』など。また、パルコ歌舞伎、三谷かぶきや三谷文楽といった古典芸能の分野でも、創作を行っている。

を振り返ってみよう。

2023年春に上演したのは二人芝居『笑の大学』。1940（昭和15）年の東京を舞台に、喜劇の台本をめぐって、警視庁

の検閲官と浅草の芝居小屋の座付き作者が攻防を繰り広げる。初演（山田和也演出、西村まさ彦・近藤芳正出演）は1996年。海外でも数多く上演され、映画（2004年、星護監督、役所広司・稲垣吾郎出演）にもなった。それを初めて自分で演出した（内野聖陽・瀬戸康史出演）。室内だけで展開する話だが、中国やヨーロッパでは戦火が広がっていた時期の「外の空気」も感じさせる演出で、その中で消されそうな「笑い」の尊さを

『虹のかけら〜もうひとりのジュディ』 撮影：宮川舞子



一層輝かせ、作品の印象を一新した。続く、24年『オデッサ』（柿澤勇人・宮澤エマ・迫田孝也出演）は、アメリカの田舎町で、殺人の疑いを掛けられた日本人旅行者、地元警察官、通訳を頼まれた青年の3人が、風変わりなドラマを繰り広げる。「標準的な日本語／鹿児島弁／英語」という三つの言葉が飛び交い、背後の字幕が大活躍した。三谷自身にとつて最も大事な道具である「言葉」が、何を伝え、何を伝えられないのか。笑いの中

この30年間、劇団メンバーが皆、演劇界の第一線で活躍してきたことを示している。一種の「同窓会」だから、往年の人気演目の延長の作品でも、観客は満足したはずだし、その方が盛り上がったかもしれない。だが、三谷はその道を選ばなかった。俳優たちの「いま」を活かしつつ、驚きの幕切れを用意。歴史と現代の世界への冷徹なまなざしを示した。

並行して上演されたのが、シェイクスピア喜劇を昭和20年代の鎌倉に移した『昭和から騒ぎ』。海外古典の翻案に初めて取り組んだ。相手のことが好きなのに、顔を合わせれば口喧嘩をするふたりを大泉洋と宮沢りえが演じ、丁々発止のやりとりで客席を大いに沸かせた。

続けて、2度目の三谷文楽『人形ざらい』。人形が人間を演じるのが一般的な文楽だが、この作品で人形たちが演じたのは、人形自身。こんな文楽、これまでにあつたのだろうか。大阪の街を舞台に、人形が通天閣のぼったり、スケートボードで疾走したりと、見どころの多い舞台だったが、劇の構造そのものも実に意欲的だった。

さらに11月には3度目の

新作歌舞伎『三谷かぶき 歌舞伎絶対続魂（ショウ・マスト・ゴー・オン）』幕を開けるな』が開演した。現代の東京が舞台の『ショウ・マスト・ゴー・オン 幕を下ろすな』を、江戸時代の伊勢の芝居小屋に置き換えた「セルフ翻案」で、歌舞伎座を笑い声で満たした。

今年には既に新作2本を発表している。『いのこりぐみ』は、放課後の小学校の教室で、若手教師（小栗旬）と教頭（相島一之）が、児童の母親（菊地凛子）と向き合う。彼女はしばしば学校に苦情を寄せ、今回は担任（平岩紙）を交代せせろと主張している。「モンスターペアレント」と教師の攻防——と思っていると、話は次第に思わぬ方向へ転がってゆく。日常の風景の中で、人間の「わからなさ」を浮かび上がらせる試みだった。

最新作『新宿発8時15分』は、天海祐希、香取慎吾、尾上松也、ウエンツ瑛士、シルビア・グラブ、新納慎也、浅野和之ら15人の俳優が100人以上の人物を演じる、100分のミュージカルだ。このメンバーで、たった100分!? 観る前は具体的なイメージがさっぱり思い浮かばなかった。でも実際に観ると、なるほどその通りの舞台だった。

朝の通勤通学時間帯。踏切で接触事故が起きたかもしれない。電車は上下線とも運転見合わせに。対応に追われる鉄道会社の職員、警察官、停車中の電車に乗り合わせた人、駅で待つ人、一見事故とは関係なさそうな人……。おびたしい

数の人間たちのばらばらな「生」が交錯する都会の瞬間を切り取り、その喜怒哀楽を歌と踊りにつづる。一般的なミュージカル像からはかけ離れた、でも、ミュージカルとしか言えない舞台が誕生した。そして、今年3本目の新作が米国ハリウッドの「赤狩り」を描く『アメリカン・ドリーム』。1950年代前半、共産主義者と疑われた多くの映画人が追放されたこの出来事を、三谷はいつか書きたいと考えていたという。出演はいずれも芝居巧者。人間の内面を深く掘り下げる舞台が生まれるに違いない。

虹のかけら
〜もうひとりのジュディ
7月22日 18:30開演 中劇場
構成・演出▶三谷幸喜
音楽監督▶荻野清子
振付・ステージング▶本間憲一
出演▶戸田恵子
演奏▶荻野清子（ピアノ）、
BUN Imai（ドラム）、
鈴木陽子（ベース）

PARCO PRODUCE 2026
「アメリカン・ドリーム」
10月1日 18:30開演
2日 13:00開演
3日 13:00開演／18:00開演
4日 13:00開演
中劇場
作・演出▶三谷幸喜
出演▶小日向文世、浅野和之、山崎一／
浅野雅博、関谷春子／中川大志

公演詳細・チケット購入はP14・15へ



ハレノワで楽しく国際交流

WORLD ENJOY PARTY!!! で楽しもう!

ふだん劇場が身近でない人たちにも、ハレノワを知って楽しんでほしい。そんな思いから始まった、外国人交流企画「WORLD ENJOY PARTY」。国や世代を超えた幅広い人が集まり、楽しいイベントが生まれています。今年はどんな場になるのでしょうか。当時から企画のディレクションに関わっていた演出家の多田淳之介さんにお聞きしました。

取材・文 黒部麻子

interviewee 多田 淳之介

演出家/東京デスロック主宰。古典や現代戯曲、ネット上のテキストなど様々な題材を演劇作品として上演する。公共劇場や自治体のディレクターを歴任し、国際・教育・地域を活動の柱として海外公演や国際共同制作、アートを活用したまちづくり、学校でのコミュニケーション授業、子どもや親子向けのプログラムなどを数多く手掛ける。

WORLD ENJOY PARTYはどんな経緯で始まったのでしょうか。

ハレノワとは開館準備の頃から「一緒に過ごさせていたたいですが、その頃から、演劇に触れたことがないとか、障害があったりして劇場に気軽に来にくいような方たちにもハレノワを知ってもらい、劇場は誰でも楽しめる場所だということを知ってほしいと話していました。そんな中で、岡山には外国の方がたくさんいるけれど、外国人にとってもおそらく劇場は身近な存在ではないだろうということで、一年間、どんなアプローチをすればいいのかりサーチしました。

留学生や日本語学校の生徒さんや職員さん、支援団体の人たちに、劇場がどんな場所だったらいいか、どんなことをしたいか、話を聞いたところ、まずはみんなで集まって楽しい時間を過ごしたいねということになりました。仕事が終わる頃にはお店も閉まっています、遊べる場所が少ない。普段一緒に過ごす人が限られていて、違うコミュニティと接する機会も少ないということでした。

そこでハレノワのスタッフさんと相談して、劇作家・演出家の田上豊さん、振付家・ダンサーの白神ももさんと僕の3人で、この企画がスタートしました。パーティーをしようということで、それぞれアイデアを出しました。2024年度から本格始動したのですが、この年は僕と田上さんと白神さんが交代でパーティーを企画し、カラオケやダンスをしたり、うどん作りパーティーがあったり、外国版の桃太郎の物語創作もやりました。

開催にあたり、工夫したことはありますか？

リサーチする中で、外国の方にとっては、日本語で申込みや予約するのがハードルだということが分かりました。まず日本語のチラシは手に取らない。普段の会話は日本語できても、チラシを読んで、申込み手順を理解して、ネットを開いたり電話したりして予約するというのは、かなりのハードルだということでした。そこで、この企画は当初から申込み不要のスタイルでやること

にしました。準備する側としては、何人来るか分からないと大変なんですけどね。それでも毎回、いろんな方が来てくれました。僕はカラオケとダンスパーティーを担当したのですが、最初に少し、みんなで打ちとけるためのワークやゲームをするので、初対面どうしても「この曲歌えるわ」とデュエットが始まったりする。ダンスの時も、皆さん日本に慣れたためか結構シャイなので(笑)、お互いの動きをまねしてみるとか、自己紹介を兼ねて自分の国の踊りを教えてもらったりしたら、その後はもうみんな輪になって大盛り上がりで踊りまくっていました。年度末にビッグパーティーをやったのですが、これも大盛況でした。

ワークの説明などは日本語ですか？

はい。通訳スタッフもつけていますが、基本的には日本語です。当初から、日本語を学ぶ場にもなればいいよねという声もあったので、生きた日本語を身につけることができました。参加者はいろんな国から来ていて、ベトナムが一番多いのですが、中国、韓国、セネガル、ベルー、アメリカ、カナダも。だから英語ならみんなに通じる、というわけでもなくて。参加者はベアやグループで来られる方が多いですが、一人の方、市外から来られる方もいます。「こういう外国人同士や日本の方と交流できる場がないんですよ」と言われます。

—— 昨年度(2025)は、WORLD ENJOY CLUBという活動を行ったのですが、どんな違いがあるのでしょうか。

2025年度は、参加者の人たちも一緒に企画を考えようというので、クラブ活動として集まってパーティーを企画していく形にしました。毎回「はじめまして」の方が多いので、集まって話すだけではなく、遊びやワーク的なこともしています。定期的に夏頃が人の集まりが良くて、七夕にパーティーをしました。その後もリクエストのあった、たこ焼きパーティーなど、公共ホールではなかなかできないこともやらせてもらっています。さすがに数日



はソースと油の油が取れなかったそうですが(笑)。今年度は、地域に出て行くという話をしています。みんな商店街を歩いたり、商店街でワークショップをしたり。外国人の街を歩いているだけで、見え方が違って発見がいろいろあって、すごく楽しいんです。外国人にとっても、職場や学校だけでは知れない日本の暮らしを、コミュニケーションをとりながら知ってもらえる機会になるんじゃないかと思っています。

演劇と国際交流の相乗効果で、新しいものが生まれそうですよね。

カラオケやたこ焼きをきっかけに、劇場を身近に感じてもらうたいですね。劇場での楽しかった思い出は、その後の人生で、きっと味方になってくれると思うんです。

ゆくゆくは何かみんなで発表できたらいねという希望もありましたが、この春、子どものワークショップとパーティーを合体させて、演劇を上演するということが実現しました。子どもたちは、ワークショップ初日にストーリーと配役を決めて、そうすると衣装が出揃うので、その日の午後からクラブの大人みんな衣装を作ったり、翌日に何とか上演できました。親御さんも見に来てくれて、子どもたちも楽しんでくれる。パーティーは作品上演よりも柔軟にやれるのがありがたいです。

僕は、舞台にのぼるってすごいことだと思うんです。カラオケなど、ちょっとした機会でもいいから、舞台に立つことで拍手をもらって人から肯定される。世間にはまだまだ演劇や舞台芸術に出会ったことのない人たちがたくさんいますが、そうした経験によって、幸せを感じられたり、苦しい時に楽になれるりするかもしれない。初めてハレノワに来て、こんなに楽しんだという喜びを、WORLD ENJOY CLUBやPARTYで出会う人たちが感じています。

ハレノワは、いい作品を上演するだけではなくて、住民をまきこんでクリエイティブで地域を豊かにするという姿勢が、とても印象的です。これからますますおもしろい劇場になってくれると期待しています。

岡山芸術創造劇場ハレノワの渡辺弘
劇場長兼プロデューサーが岡山の芸術
文化のさまざまな分野で活躍している
人たちに、とっておきの話を伺う「ハ
レノワダイアログ」。今回は岡山の公
共施設を拠点に、文化・芸術活動を
企画・制作するNPO法人企画on
岡山代表の大場真護さんです。

渡辺 昨年、活動の集大成ともいえる著
書『企画と集団のはざま〜ホールを原つ
ぱにしてあそぼう〜』を刊行されまし
た。改めてそこに至るまでの経歴や想い
を伺いたいと思います。まず、20代は何
をされていましたか？

大場 大学紛争で混沌とした時代で、大
学に10年も籍を置いて、ようやく卒業し
ました。そして、29歳で岡山に帰ること
に。教員採用試験に落ちて、真庭のスー
パーマーケットに履歴書を送ろうとして
いたときに、山陽女子中学高等学校の国
語教師に欠員が出たことで声がかかり、
教員として働くことになりました。

渡辺 影絵はその頃に始められたとか。

大場 中学生はエネルギーがあり余って
いる時期なので、ガス抜きが必要だと感
じ、思いついたのが影絵でした。演劇部
の顧問をしていたので、演劇も考えたの

託職員として従事され、建築家の前川國
男を再発見されました。

大場 早期退職した年が、たまたま天神
山文化プラザが指定管理者制度を取り入
れた時でした。働き始めて3年目の50周
年記念事業では「前川國男」を中心に企
画を行いました。ルネスホールでは「ルネ
スをあそぶ」という言葉を思いつき、建
物からアイデアを拾い育てていきました。

渡辺 数年後にNPO法人「企画on岡
山」を立ち上げられました。ここで大
切にされていたのが、本にも書かれていた



カヤ文明：ホールに吊った巨大蚊帳の中で、子どもが高齢者の語る怪談を聞く。



第10回 ホールを「原っぱ」にして 遊び続けるために

【話し手】NPO法人企画on岡山

大場 真護

【聞き手】渡辺 弘

「ホールを原っぱにしてあそぶ」。いい言
葉ですよ。 「原っぱ」は、自然に出てき
た言葉ですか？

大場 最初は原体験である「路地裏」で
した。「原っぱ」にしたのは語呂の良さか
ら。路地裏や原っぱのように、自由さを
感じさせる空間とマイナスイメージが混
ざった場になればと思って。

渡辺 大場さんの作る場は、たしかに
「原っぱ」になっていますよね。みんな
がそこで遊んでいる感じがします。そん
な原っぱを作ってきた大場さんは、岡山
の芸術・文化をどう見えていますか？

大場 僕が知っているのは主に「舞台」
の領域ですが、「集団で時間をかけてめ
んどくさい作業を積み重ねていく」こ
とが年々困難になっている感じがしてい
ます。一方で、行政等が世話をしてくれ
る舞台には人が集まって盛んになってい
る。本来、「カルチャー」の語源は「自ら
が畑を耕す」こと。「めんどくさい作業」
にエネルギーを注ぐことは、豊かなこの
地なら可能だと思っています。

多くの花が咲いていけば賑やかですが、
長い目でみればその分「土」が痩せてい
ているかもしれません。若い人から高齢
者まで一緒にくわをふれば、自然と「畑
を耕すこと」が受け継がれ、地域に欠か
せない「人」を育てることになる。その
人たちと手塩に掛けた土から作品が芽を



おおば しんご
大場 真護

1950年真庭市生まれ。早稲田大学卒業。山陽女子中学高等学校、岡山県天神山
文化プラザでの勤務を経て、2015年にNPO法人企画on岡山を設立。「野良のあ
そび箱」や「ニシガワ図鑑」など、地域特有の「場」を再発見し、文化・芸術
活動の企画・制作を続けている。著書に『一匹狼の文化人on岡山』(2017年)、『企
画と集団のはざま〜ホールを原っぱにしてあそぼう〜』(2025年) などがある。

スがあればお願いします。

大場 人々の要求に応えすぎれば劇場で
はなくなるし、一方で軽んじれば人は離
れていく。大変ですが、大衆を巻き
込みながらも、大衆迎合主義に陥らない
絶妙なバランスが常に求められると思
います。

渡辺 本当にその通りです。勇気をもら
いました。本日はありがとうございました。

(インタビュー…2026年4月7日・ハ
レノワにて)

ですが、影絵の方がクラスの全員が気軽
に参加できると思いました。

渡辺 どんなことから始められたんで
すか。

大場 こちらが準備して教えようとする
と、どうしても授業の延長になって文化
にならないので、もう一人の担任と生徒
でよくいドンで始めました。

渡辺 その後、教育相談室長になりまし
たね。それはどうして？

大場 影絵のような集団で何かを作るこ
とを、集団内での関係のねじれから起こ
る問題への「予防的教育相談」とあとか
ら知りました。ただ、どうしてもそれで
はカバーしきれない「個人の問題」は生
じます。スクールカウンセラー制度が導
入された1995年に、自ら相談室長を
希望しました。臨床心理学者のカール・
ロジャーズが唱えた「受容・共感・一致」
を意識して、折々に担任から校長まで
チームで対応するといったシステムを構
築しました。いじめは年に2〜3件あり
ましたが、それぞれが素直に気持ちを伝
えあえ、一致できる状態に向かうことを
目標に、生徒や保護者から解決へ向かう
様々なサインを拾っていきました。毎年
約30人の進級と卒業に関わりましたね。

渡辺 退職後には天神山文化プラザの囁

おかやま文化芸術振興事業 イベント開催レポート

Event Report

サーカス学入門

岡山が世界に誇る“木下サーカス”のミュージカル上演にあたり、入門講座・ワークショップなどを開催し、改めてサーカスの魅力を感じてもらおうという企画。1年を通してサーカスの起源から現在のサーカスまでを学ぶ機会を提供した。



ワークショップ



パネル

- サーカス学入門～木下サーカスと岡山文化～
第1回《世界編》“映画でたどるサーカスの歴史”
2025年7月5日(土) 14:00～16:00 ソバラ屋2階
講師▶大島幹雄
- 第2回《日本編》“正倉院から木下サーカスまで”
2025年7月26日(土) 14:00～16:00 ソバラ屋2階
講師▶大島幹雄
- 第3回《現代編》“世界のサーカスのいま”
2025年8月2日(土) 14:00～16:00 ソバラ屋2階
講師▶西元まり、大島幹雄

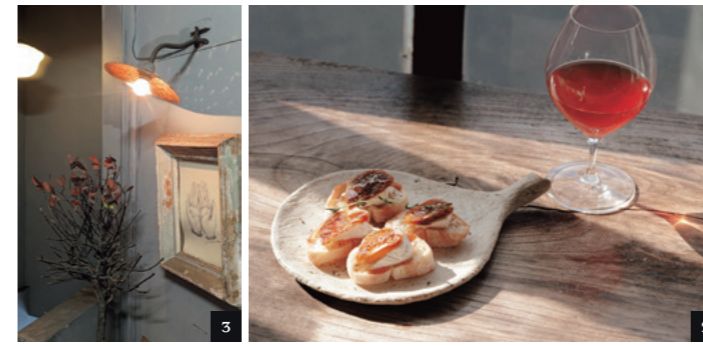
- TEAMパフォーマンスラボのサーカスワークショップ
2025年8月18日(日) 13:30～15:00 大劇場舞台上
講師▶もっきー、はなまる、Kei
- 「木下サーカスと表町」を語る会
2025年9月13日(土) 13:30～15:00 アートサロン
登壇者▶木下唯志、原憲一
- 「木下サーカスと表町」パネル展
2025年11月18日(火)～12月14日(日) ギャラリー

ジャパン・アヴァンギャルド アングラ演劇傑作ポスターから時代を挑発したポスター

2026年1月8日(土)～25日(日) 11:00～20:00 小劇場

1960～80年代の“アングラ”と呼ばれる小劇場演劇の傑作ポスターの展示。関連企画では、展示されているポスターの解説、当時のデザインを手がけたデザイナーによるトークショウを行い、当時の演劇を知っている方だけでなく、若年層など幅広い世代の方にご来場いただいた。

- 関連企画 ギャラリー解説ツアー
2026年1月11日(日)・25日(日) 各日15:00～ 小劇場
解説▶笹目浩之
- 関連企画 ギャラリートークショウ
2026年1月12日(月) 15:00～ アートサロン
登壇者▶榎本了壺、小堀純、笹目浩之



1. 夜の外観。窓からこぼれる灯りが街の景色に溶け込む。/2. 手前は「ドライいちじくとカマンベールチーズのブルスケッタ」。ナチュラルワインに合うメニューも豊富。/3. 味わいのある家具や雑貨があちこちに。器は質感の美しいものをセレクト。

■Folklore (フォークローア)
岡山市北区京橋町9-25 石原ビル2F TEL 086-234-4911
営業時間▶11:00～22:00 (OS21:00) ※フードの提供は木～月曜(～15:00)
休業日▶不定休 ※営業日や店の情報はInstagram (@folklore_) で確認を

2017年に「Folklore」としてリニューアル。自分が本当に良いと感じるものを基準に選び直したことで、なじみのある空間に色あせない魅力を吹き込んだ。さりげない個性が伝わる佇まいと、つい長居したくなる心地よさ。何回訪れても、入口の階段を上る時のワクワク感が変わらない。

昼夜を通して開く同店では、訪れる時間帯によっていろいろな楽しみ方ができる。友人同士で味わうランチ、疲れを癒すティータイム、バー感覚で過ごす夜のひと時など、その時々シーンに合わせたメニューを提供。いつでも誰とでも、思い思いにくつろぐことができる。「お客さんごとに目的が違うので、カフェと一括りにはできない感覚があります。型にはまらず自由な楽しみ方を見つけてもらえたら」。山田さんのおすすめは、昼下がりのナチュラルワインとおつまみ、おやつを組み合わせ。

「例えばハレノワでの夜公演を観に行く前に、軽めのアルコールやアテでサクッと小腹を満たしたり」。カジュアルな昼飲み場として、肩の力を抜いて過ごせるのもうれしい。

築70年超のビルを改装した店内は、使い込んだ家具や雑貨がなじむ空間。造りの古さが味わいとなり、窓越しの光は柔らかく、夜の灯りは温もりへと変わる。この界限でこれだけのキャパシティを持つ古ビルは貴重な存在で、山田さんはこの建物と表町エリアに大きな魅力を感じているそう。「当初は街の一番外れ、という印象を持っていたんです。でも県外客の目線で見ると十分にアクセスが良く、新旧のバランスや人の流れもちょうど良い。窓越しの風景とともに、街自体への愛着も深まりました。これからも大好きな場所で、自分が好きなことをずっと貫いていきたいです」。

西大寺商店街を出てすぐの一角、レトロなビルの2階には、25年以上この街で続く人気のカフェ「フォークローア」がある。時を積み重ねた空間、大きな窓から見える街の景色が個性となつて、穏やかに居心地の良い空気をつくりだしている。

「フォークローアは、人づてに受け継がれた風習や民間伝承という意味があります。店をリニューアルした際、特に言葉の響きが気に入って選びました」。そう話すのは、この場所に店を構えて25年になるオーナーの山田浩三さん。初めは「shuri(シュリ)」という店名で営業を開始し、

散策 オモテ帖

11 自分のスタイルで、街と人の風景をつなぐ

大きな窓から光が差し込む店内。どの席からも外を眺められる。



虹のかけら～もうひとりのジュディ

女優、声優と幅広いジャンルで活躍する実力派・戸田恵子と戸田の魅力をよく知る演出家・三谷幸喜の強力なタッグで贈る、ジュディ・ガーランドと知られざるジュディ・シルバーマンの物語

7月22日(水) 18:30開演 中劇場

構成・演出▶三谷幸喜 音楽監督▶荻野清子 振付・ステージング▶本間憲一
出演▶戸田恵子 演奏▶荻野清子(ピアノ)、BUN Imai(ドラム)、鈴木陽子(ベース)
料金▶全席指定 7,800円 チケット好評発売中!



ハレの輪子どもフェスティバル2026

演劇や人形劇、0歳から楽しめるベイベーシアター、劇場の大きなガラスに描くマスクングテーブルアート、遊びと工作のワークショップなど、いろいろな体験が詰まった3日間

7月31日(金)～8月2日(日) 全館使用

【特別公演】

子どもと大人のためのリラックスパフォーマンス『やさしいカクメイ』
コンパニー・デ・ミュタン(Compagnie des Mutants)×サイド・ショー(Side-Show)共同制作
ベルギーの児童演劇カンパニーと現代サーカスカンパニーが送る、どんな人でも自由な楽しみ方ができるパフォーマンス作品



© Hubert Amiel

8月1日(土) 14:00開演・2日(日) 11:00開演/14:00開演 大劇場舞台上

料金▶全席自由 大人 3,000円 / 子ども(3歳～18歳) 1,500円 / ペア券(大人1名+子ども1名) 4,000円 チケット好評発売中!

市原佐都子/Q『キティ』

“かわいい”の象徴であるねこ(kitty)が、家庭・社会の中で出会う様々な“かわいくない”出来事に違和感を覚えていく

9月12日(土) 15:00開演・13日(日) 14:00開演 小劇場

作・演出▶市原佐都子
出演▶バーディ・ウォン・チンヤン、永山由里恵(青年団)、中西星羅、花本ゆか(マツキモエ×はなもとゆか)
料金▶全席自由 一般 3,500円/U24 2,500円 チケット発売▶6月27日(土) 10:00



撮影：中谷利明

PARCO PRODUCE 2026

「アメリカン・ドリーム」

脚本家、映画監督、俳優、映画人—映画を愛する人々の戦いを、戦時下での芸術を愛する人々の姿を描いてきた三谷幸喜が満を持して書き下ろす

10月1日(水) 18:30開演・2日(木) 13:00開演・

3日(金) 13:00開演/18:00開演・4日(土) 13:00開演 中劇場

作・演出▶三谷幸喜 出演▶小日向文世、浅野和之、山崎一/浅野雅博、関谷春子/中川大志
料金▶全席指定 一般 11,000円/U24 5,000円 チケット発売▶7月5日(土) 10:00



おかやまアーツフェスティバル2026

青年団「銀河鉄道の夜」 舞台手話通訳付き公演

青年団主宰・平田オリザによる、宮沢賢治の名作童話を鮮やかに舞台化した子ども向け演劇作品
障がいのある方でも楽しめる舞台手話通訳付きで上演

10月11日(日) 14:00開演 小劇場

原作▶宮沢賢治 作・演出▶平田オリザ
料金▶全席自由 一般 2,500円/U18 1,500円 チケット発売▶8月1日(土) 10:00



撮影：igaki photo studio
画像提供：豊岡演劇祭実行委員会

おかやまアーツフェスティバル2026

劇場で出会う文学vol.3 ～小川洋子×朗読×音楽～

2024年の初演で好評を博した朗読劇が、岡山ゆかりの小説家・小川洋子と演出・角ひろみのタッグ、オリジナルキャストで再演!
『レ・ミゼラブル』全79公演に通う主人公と、劇場で出会う「彼女」の物語

10月21日(土) 19:00開演 中劇場

上演作品▶小川洋子「ダブルフォルトの予言」短編集「掌に眠る舞台」より
演出▶角ひろみ 出演▶神野三鈴、ドリアン・ロロブリジータ 演奏▶松岡陽平
料金▶全席指定 一般 3,000円/U24 2,000円/U18 1,000円
チケット発売▶7月25日(土) 10:00



名取事務所公演「追熟しない果実」

2025年好評を博した『燃える花嫁』に続く、名取事務所プロデュースの新作。
ニホンザルが生息する山間の食堂を舞台に、小さな地域社会の動揺と葛藤を、緻密な会話劇を得意とする横山拓也が描き出す

10月24日(土)・25日(日) 両日13:00開演 小劇場

作▶横山拓也 演出▶西本由香
出演▶竹下景子、松本紀保、枝元萌、西尾友樹、八頭司悠友、森尾舞、西山聖了
料金▶全席自由 一般 3,800円/U24 2,000円 チケット発売▶8月8日(土) 10:00



おかやまアーツフェスティバル2026

国立劇場×刀剣乱舞ONLINE

刀剣男士 髭切・膝丸がいざなう!日本舞踊の楽しみ

2025年に好評を博した入門公演が再演決定!
オンラインゲーム『刀剣乱舞ONLINE』とコラボレーションした日本舞踊の入門公演

11月1日(日) 14:00開演 中劇場

演目▶解説「日本舞踊の楽しみ」、長唄「綱籠」、長唄「土蜘蛛」-長唄「土蜘蛛上・中・下」より
料金▶全席指定 S席 5,500円/A席 4,500円/U24 2,500円
チケット発売▶7月25日(土) 10:00



提供：国立劇場 撮影：田口真佐美

※掲載内容は2026年6月1日時点の情報です。今後公演内容や出演者等に変更が生じる場合がございます。 ※チケットの販売状況によって、完売もしくは残り僅かの場合がございます。

チケットの
ご予約・ご購入

窓口|お電話



岡山芸術創造劇場ボックスオフィス TEL 086-201-2200

受付時間/10:00～18:00(休館日を除く) ※詳細はホームページにて

岡山シンフォニーホールチケットセンター TEL 086-234-2010

受付時間/10:00～18:00(休業日を除く) ※詳細はホームページにて

※2026年7月6日(日)～9月24日(土)の間休業

インターネット
[24時間受付]



岡山芸術創造劇場/
岡山シンフォニーホール
オンラインチケット

<https://piagettii.s2.e-get.jp/ocaticket/pt/>



その他
プレイガイド

イープラス eplus.jp/ファミリーマート
チケットぴあ <https://t.pia.jp/>
ローソンチケット <https://l-tike.com/>
ぎんざやプレイガイド TEL 086-222-3244

※公演によって取扱いが異なります。詳しくは各公演の情報をご確認ください。

CHECK IT OUT !

ワークショップ

ハイスクールmeetTexT

県内の高校生に向けた全4回の戯曲講座。

岡山が誇る詩人・永瀬清子をテーマに、オリジナルの戯曲を作る

7月11日(土)・12日(日)・18日(土)・25日(土)

各日13:30~17:30 第4練習室

講師▶角ひろみ

参加費▶500円

対象▶岡山県内の高校生

申込締切▶7月6日(日)

マエストロ塩ちゃんの ミュージカルへの招待状

数々の名作ミュージカルで指揮をとる

塩田明弘によるミュージカル講座

7月12日(日) 14:00~15:30 アートサロン

講師▶塩田明弘、長谷川友紀

参加費▶無料(先着順)

対象▶小学生以上

劇場ラボ

ハレノワひろば

劇場で自由にあそぶ子ども向けワークショップ

7月25日(土)~9月5日(土) <全4回>

アーティスト▶深谷千草、スミカオリ、
岩本象一、多田淳之介

参加費▶無料(各回先着順)

対象▶小学1年~6年生

WORLD ENJOY CLUB

岡山在住の外国人、日本人向けの交流プログラム

今年はアーティストと表町商店街に遊びに行こう!

7月25日(土)・8月8日(土)・29日(土)

アーティスト▶深谷千草、スミカオリ、岩本象一

参加費▶無料

対象▶岡山在住の外国人、日本人

各回の詳細・申込はホームページをご確認ください



読者アンケートにご協力ください!

今後の誌面づくりの参考にさせていただきます。

*回答者全員に限定ハレノワオリジナル壁紙をプレゼント!



回答はこちらから



ハレノワ通信 [WA] VOL.13 2026年6月15日 発行

編集人 渡辺弘

〒700-0822 岡山市北区表町3-11-50

代表 TEL 086-201-8000

発行 公益財団法人岡山文化芸術創造
岡山芸術創造劇場

ボックスオフィス TEL 086-201-2200 (10:00~18:00)

https://okayama-pat.jp/

制作・印刷 株式会社中野コロタイプ

編集協力 株式会社吉備人

記事・画像の転載・複写を禁止します。



岡山芸術創造劇場
ハレノワ

お客様用の駐車場はございません *近隣のコインパーキングや公共交通機関をご利用ください。

*歩行困難者用の駐車区画あり。また、タクシーの降車と福祉車両の乗り入れが可能です。
詳しくは施設担当 (086-201-8016) までお問合せください。

ハレノワ・メンバーズ登録受付中!

登録・
年会費
無料!

【特典1】いち早くチケットを購入できる

【特典2】インターネットから座席を選んでチケットが購入できる

【特典3】お得な情報をご案内

ご希望の方には公演情報や先行発売などのお知らせを
メールマガジンにてお送りいたします。

詳しくはこちらから <https://okayama-pat.jp/member>



ハレノワの
最新情報はこちら



Instagram



X



公式サイト



JR岡山駅からのアクセス【JR岡山駅より路面電車】
東山行▶「西大寺町・ハレノワまえ」下車 徒歩約5分
清輝橋行▶「大雲寺前」下車 徒歩約5分

岡山芸術創造劇場
ハレノワ